

令和3年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

学園の教育理念に基づき、時代や社会、産業界が求める職業人を育成することを目的として学園は新たなフェーズに入った。新型コロナウイルスの影響を受け、社会全体が急速にデジタル化に舵を切った1年であった。学園も第七分野（服飾・家政）ファッション専門課程に加え第一分野（工業）デジタル専門課程の認可を受け教育を開始し、IT分野における知識と技術を学内に蓄積することができた。ファッション専門課程の学生にITの知識をデジタル専門課程の学生にファッションの知識を習得させることによりファッション産業界に貢献できる新し人材育成のスタートラインに立てた1年だった。

基準2. 学校運営

18歳人口の減少に対応するために、平成28年に国際・流通・ITビジネスコースを立ち上げ、留学生教育に参入し6年が経過した。今回第一分野（工業）デジタル専門課程国際情報ビジネス科の認可を受け、教育の質と内容を更にIT化することができる体制が整った。第七分野（服飾・家政）ファッション専門課程及び第一分野（工業）デジタル専門課程の2課程体制で教育の幅を広げることができ、時代のニーズにあった教育が実践できた。

基準3. 教育活動

知識、技能の習得だけではなく、社会性を身に着けさせるため新入学時や進級時に学生指導要項の指導を徹底した。また、連絡の必要性、遅刻・欠席後の対応、清掃・片付けの必要性など細かい指導を強化し成果をあげた。ICT教育（パソコン、タブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育手法）を教育の基本計画として、IT能力を向上し、就職に役立ち且つ、学生のニーズの高いカリキュラムの編成として、ソーシャルメディアに対応する新規授業を導入し、情報発信力、分析力を身につけさせた。また、グラフィックワークの授業を拡充し、画像編集ソフトPhotoshopの技能を習得させプレゼンテーションの完成度を高めることができた。デジタル専門課程では、ITベンチャー企業Lance Digital Strategy社及びヒューマンテクノシステム社と連携して実践的なプログラミング、ECサイトの構築運営ができるIT技術者の育成ができた。

基準4. 学修成果

学習の成果を出来るだけ可視化することを目的として学園では必須検定として受験している、一般財団法人日本ファッション教育振興協会のパターンメイキング検定3級1次の筆記試験及び2次の実技試験ともに合格率が100%と優秀な成績であった。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け日程が変動したが、2年生が受験するファッション販売能力検定2級の合格率は40%、だったが1年生が受験する3級は合格率が100%と優秀な成績を収めた。2年生が受験するファッションビジネス能力検定2級の合格率は33%と全国平均を下回ったが、1年生が受験する3級は合格率100%と優秀な

成績を収めた。また、必須検定の指定では無いが学習意欲が高く受験した、フォーマルスペシャリスト検定準2級の合格率は92%、色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1の合格率は100%、モジュール2も75%と高い合格率を確保した。検定以外も論理的思考や表現力、説得力など学生個々の能力向上を目的として1年生ではマーチャンダイジング、ファッション画、コンピュータワークで成果をプレゼンテーション。2年生、3年生はファッションデザイン、ブランドクリエイションで成果発表を行う。また学内2大コンテストであるファッションビジネス科2年生を対象とするFCSプロモーションコンテストは10月に開催し、2月開催のファッションショーでの作品を評価するFCSファッションコンテストは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け学内のみで審査をし、学習の成果はLIVE配信を中心に行った。

就職支援に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、募集企業が激減。教員がインターネット上で求人を検索して学生に紹介し就職につなげた。また、1年生へは就職支援企業の協力を得て、学内でオンラインで企業研究会を開催し、企業情報、職種情報、働く事の意義などの講義の情報を提供し、就職活動をサポートした。

基準5. 学生支援

1年生の31%、2年生の32%が奨学金を含め就学の支援を必要としている。令和2年度も高等教育の就学支援新制度の認定を受けて学生の支援体制を充実させることが出来た。また、新型コロナウイルスに感染することは、それ自体で治療、健康観察を含め2週間以上学校を休むことになる。その機会損失を負わせない為にも感染対策の啓蒙と衛生管理を徹底した。就職支援に関してはオンラインでの企業説明会を企画、開催し早期に情報提供を行う。また、1年次後期よりキャリアデザインの授業をカリキュラムに組み込み、就職意識の早期醸成に努め一定の成果を上げることが出来た。

基準6. 教育環境

新型コロナウイルスの感染が長期化した現状、実習中心型である授業ではあるが、一部ではリモートの授業をトライアルで実施した。一方的な講義で140分間続けるには、教師、学生双方に相当なストレスがかかった。今後は、リモートでの講義と個人ワークを組み合わせる変化のあるリモート授業を実現したい。また、昨年も実施したオンラインでの企業研究や就職活動用において印象良く相手に伝えられるように照明やカメラアングルなどを研究し効果をあげた。

基準7. 学生の募集と受入れ

新型コロナウイルス感染の収束が見えない状況が続く、一斉集合型の体験実習、学校説明会から生徒個別に対応する相談会にシフトし、生徒の安心、安全に配慮する学生募集とした。ITC化促進の一環として、Instagramを活用した情報発信を行い、ノウハウの蓄積とともに一定の成果をあげた。また、WEBマーケティングのコンテンツとして最も効果があるとされているPR動画を作成。動画配信によりより短時間で印象的なコンテンツで文字情報より高い宣伝効果が得られた。Instagram広告の活用やリスティング、リマーケティング広告を実施し、自校ホームページ、スマートフォンページに誘導し来校促進

が図れた。

基準 8. 財務

学生納付金収入はファッション専門課程は安定しているが、デジタル専門課程は外国人留学生に依存しているため、新型コロナウイルスの影響を受け不安定化してきている。デジタル専門課程も高校生や大学の卒業生を主力に外国人留学生に頼らない状態を早期に構築したい。また、流動資産の金銭信託の運用に関しては従来短期売買型で高リスク運用であったが、決算状況を考えながらの中長期の資産運用に変更した。資産の健全化に向けて、外国株を中心とする成長分野の投資信託の購入やG A F A + Mを中心とするグーグル、アップル、アマゾン、マイクロソフト株に中長期に投資を行った。

基準 9. 法令等の遵守

警視庁、東京都、千代田区からの情報に関しては、必要に応じて教職員は朝礼及び全体会議、教員会議で伝達され、学生に於いては午前午後のホームルールで伝達されている。学生に対しては法令違反を未然に防ぐため、講習会や冊子の配布を適切に実施している。また、教職員の修業関係関連規則は全てを見直し、現行法令に即して修正を加え、パソコン上の共有フォルダーに保存されいつでも閲覧できる状態を継続。

基準 10. 社会貢献・地域貢献

平成24年11月より地域貢献の一環として学校施設、設備を使って洋服などを自由に創作できる「ミシンLabo桜丘」をスタートして10年近くが経過。担当教員の産休、育児休暇や新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和3年4月に休止することとなった。また、新たな形で地域貢献、社会貢献を検討していきたい。また、新型コロナウイルスの感染継続の中、学生自身には外出を自粛するなど行動制限により学生個々が注意を払い、感染リスクを減らすことが新型コロナウイルスの早期収束に向けて責任ある行動であるため、その啓蒙活動を徹底した。